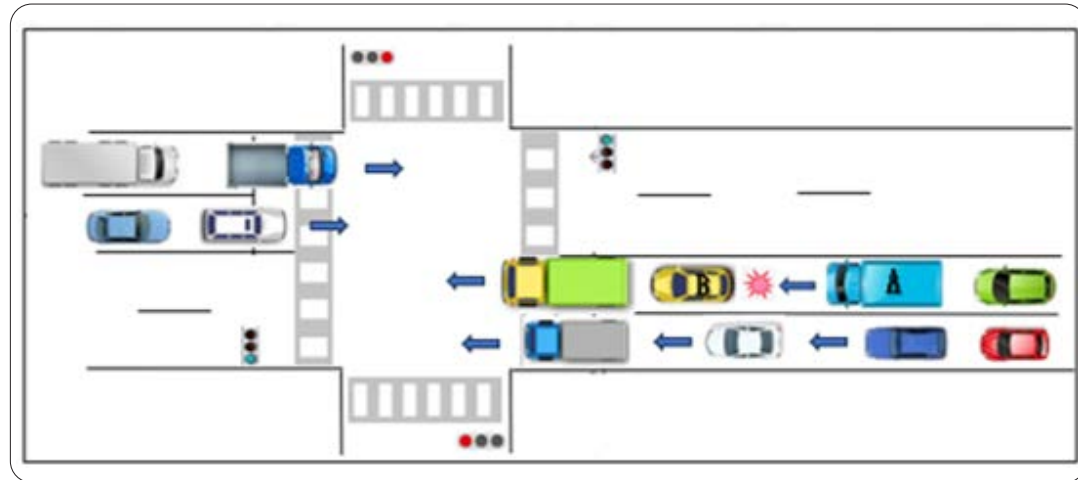


職場における交通安全指導

Part 135

青信号で前々車が発進したため自車を発進させ、停止中の前車に追突



■事故の概要

●事故の当事者

当事者A（中型貨物車）：60歳代、男性
当事者B（普通乗用車）：45歳代、女性

●被害状況

A：車両前部凹損
B：頸椎捻挫(全治3週間)
車両後部損壊

●道路状況

信号機のある交差点手前の直線道路

事故状況

運送会社に勤務して30年になるAは、中型トラックの乗務経験が豊富なドライバーで、これまで無事故で勤務していた。

最近になり対物事故を続けて2件起こしており、会社から運転中の集中力に欠ける点や注意力の欠如などを注意されていた。

そのことを深く考えすぎたAは、自分の運転に対し不安を抱き、仕事上のミスが目立ちはじめた。

事故当日は、県内の物流センターから冷凍食品類を積み込み、県内の量販店への配送業務中であった。

配送も終盤に差し掛かり、Aは片側2車線の第2通行帯を走行中、十字路交差点の赤信号に従い、前車の普通車Bに続いて停車していた。

信号待ちをしていたAは、順調にここまでできた安心感から「久しぶりに家族で外食にでも行こう」と考え、運転への意識が薄れていた。

前方信号が青色に変わり先頭の大型貨物車や第1車線の車両が動き出したのを認め、当然Bも発進するだろうと思い自車を発進させたところ、停車中のBに追突し頸椎捻挫の傷害を負わせた。

事故の原因

運転も終盤に差し掛かり、仕事が終わった後のことを考えて運転に集中できず、漠然と先頭車両や他の車両が動き出したことだけに気を取られ、注意力も散漫となりBの発進を確認するなどの安全確認を怠ったまま発進してしまったことがこの事故の原因です。

安全指導

1. プロとしての自覚

Aは、同社では長い経歴を積んでいる運転者で、しかも、長年無事故であったことから運転には自信を持っていました。

しかし、無事故が講じて自身への過信が募るとともに自負心も強くなったことから、続けて起こした事故を契機に自信が崩れ、仕事上のミスも繰り返すようになり、最近では運転に対して不安感を抱えて勤務している状態でした。

一度事故を起こせば被害の大小にかかわらず、被害者や本人、家族、会社など周囲の関係者に少なからず影響を及ぼします。

貨物自動車を運転する者にとっては、運転中の危険性、被害の重大性を考えれば、安全運転への確固たる自覚が求められます。

人間の行動にはヒューマンエラー(ミス)はつきものですが、交通事故の及ぼす影響の大きさを考えれば、プロドライバーといわれる職業運転者は「絶対にミスは許されない」といった強い自覚と姿勢で運転することが大切です。

2. 注意力を保持し運転に集中

Aは、会社におけるベテランドライバーであったものの、順調な運転をしてきた安心感から、心に隙が生まれて注意散漫となり「久しぶりに家族で外食にでも行こう」と考え、運転への集中力が途切れてしまい、心理的・生理的要因である「運転以外の考え事をして」「ぼんやりと前を見ていた」など運転に集中せず周囲の車両の動きだけで自車を発進させてしまったのです。

運転は、認知・判断・操作の繰り返しで、運転に必要な情報は認知がなければ判断することもできません。

「心ここにあらざれば、視れども見えず」という言葉があるように、考え事をしながら運転していると、前を向いていても前方の状況が目に入らず、顔は前を向いているが実は見えていないという危険な状態に陥りやすくなります。

運転中は、運転以外のことに気を取られたり、考え事に耽ることなく、運転に集中しましょう。

3. 追突事故の特有パターン

視点の高いトラックドライバーのアイポイントは、直前の小さな普通車よりも、その前方の同じ目線の高さにある周囲の大型車両や信号などにいきがちです。そのため、前方の大型車両の発進に同調して、直前の車両の動向を確認せず発進してしまうと未発進の前車に追突することになります。

このような事故を「シンクロ追突」といい、トラック特有の事故です。

4. 追突事故の主要原因

追突事故の主な原因として、次のようなことがあげられます。

(1) 動静不注視

相手車両の存在をあらかじめ認識していたが、危険はないものと注視を怠った。

(2) わき見運転

伝票や外の景色を見ていた、携帯電話の使用やカーナビの操作など。

(3) 漫然運転

運転以外の考え事や悩みを抱えボーッとしていた。

(4) 車間距離不足

前車との必要な距離、間隔を取っていないかった。

(5) スピードの出し過ぎ

停止や回避できる速度で走行していなかった。

今回の事故は、信号待ち後の発進時に発生したよくあるパターンです。

運転の基本は、目で見る確実な安全確認で、これらの事故を防ぐには、まず発進前に自車の前後左右の安全を確認して発進する癖をつけるほか、意識的に前車との車間距離を適正に保ち、直前の車両の動きから目を離さず運転するように心掛けることが大切です。

2023年度上半期類型別事故発生状況

事故類型	区分	対人(総件数171件中)			対物(総件数820件中)		
		件数	発生割合	前年比	件数	発生割合	前年比
車	追突	80	46.8%	16	108	13.2%	13
	衝突	6	3.5%	0	24	2.9%	-8
相	その他衝突	30	17.5%	-8	253	30.9%	-1
	互	小計	116	67.8%	8	385	47.0%
車両単独		4	2.4%	0	411	50.1%	39
交通弱者		51	29.8%	10	24	2.9%	8
合計		171	100.0%	18	820	100.0%	51